

立川市指定文化財の新指定

教育委員会は令和6年3月25日付で、新たに4件の文化財を市指定有形文化財に指定しました。いずれも柴崎町に所在する普濟寺に伝わる文化財です。

文化財保護のため一般公開は行っておりませんが、歴史民俗資料館で開催する展示等で特別公開を予定しています。

教育委員会では、これら指定文化財の適切な保存および活用を図るとともに、これからも貴重な文化財の確認・調査を行い、保護に努めてまいります。

詳細は「文化財・資料館」ホームページをご覧ください。

歴史民俗資料館 ☎ (525) 0860



「普濟寺版 大方等大集經」24帖

南北朝時代、応安7(1374)年から至徳3(1386)年。武蔵国では最古の開版事業と考えられる、普濟寺の寺名を称した刊經(印刷された經典)の一部。

「普濟寺古過去帳」3冊

江戸時代、享保元(1716)年ほか。寺院の由緒や沿革、地域の中世史料を記録した帳面。



「普濟寺梵鐘」1口

江戸時代、元禄4(1691)年。鋳銅造。旧谷保村の鋳物師・関氏の遺品で、立川市域内では最古の鐘。



「普濟寺境内井堂塔図」1幅

江戸時代、享保2(1717)年。中世末に焼失した寺院を復興し、再建の際に境内等を描いた絵図。



立川市の
歴史と
文化財

54

立川市の花「コブシ」



写真1：コブシの花



写真2：立川市指定有形文化財「立川村十二景」のうち「所澤街道八店」

陽気が春めいてくる3月に、他の木々に先駆けて、白く可憐な花をつける木があります。立川市の花「コブシ」です(写真1)。コブシの花を目にして、春の訪れを感じる市民の方も多いのではないのでしょうか。

市の花にコブシ、市の木にケヤキが選定されて今年には50年になります。コブシは、日本および静岡県(韓国)原産で、モクレン科モクレン属の落葉高木です。3月から4月にかけて白い花を咲かせ、8月ごろには奇妙な形をした鮮やかなピンク色の果実を実らせします。

「コブシ」の名称の由来には諸説あり、このでこぼこした果実の形を握り拳に見立てたという謂れもあります。では、なぜコブシが立川市の花として選定されたのでしょうか。

昭和30年代から40年代にかけて、日本は高度経済成長のなか急速に

都市化が進みました。立川も、大気や水質汚染、ゴミ処理を巡る環境問題などの公害をはじめとする都市問題が激化し、自然、とりわけ緑地の重要性が叫ばれはじめます。立川市では昭和49(1974)年から、市民の健康生活環境を保全するべく、失われていく大切な緑を守り増やし育てようと緑化行政が本格的にスタートし、緑化推進条例の制定、緑化推進協議会の設置、市の花・市の木の選定などを実施しました。市の花・木の選定にあたり、緑化推進協議会は、「緑の葉が太陽に輝く、公害のない町づくり」と題して、市の広報紙『広報たちかわ』で市民の声を募集しました。さらに、「立川の気候・風土にあつたもの」「親しみやすいもの」といった条件を入れて慎重に協議し、「武蔵野に原生している」て立川には馴染み深く、「春に先がけて、花を咲かせ、純白で

可憐なことから」(『広報たちかわ』昭和49年7月1日付「市の木と市の花きまる」)、昭和49年6月20日、市の花をコブシに決定いたしました。この決定について、明治41(1908)年に立川に生まれ、明星大学経済学部教授を務める傍ら、立川市文化財保護審議会委員のちに会長として立川市事業に尽力された中野藤吾氏は、「広大な武蔵野の雑木林が、一望みな冬木の梢を靡かせるとき、あちらの森かげ、こちらの畔ぎわ、いち早く白い花を咲かせて人々を和ませたコブシの花は、春到来の象徴であった。(中略)惜しいことに戦時戦後の木材不足時代に、所々方々に見られたコブシの大樹が雑木とともに切りさられて、むしろ人々の記憶から薄れていた折から、市の木の選定はまことに立川に春を蘇らせるよすがでもあった」(『続街の片隅から―言わずもがなの記』け

やき出版、平成3(1991)年)と振り返っています。

コブシの白い花は「春告花」とも呼ばれますが、立川市指定有形文化財「立川村十二景」の「所澤街道八店」(明治38(1905)年頃の風景を描いたもの)にも立派なコブシの老木が描かれています(写真2)。作者の馬場吉蔵はこの絵画の添え書きに「春は駅から遠く白雲のたなびく如く咲き誇る姿が見られ、春の訪れをしみじみと感じた事も度々あった」と記しています。「立川村十二景」において、馬場吉蔵は線画に彩色しています

が、この「所澤街道八店」のコブシは幹を線画にせず、花のみ際立つように線画にして描き分けています。

また、コブシの花のモチーフといえ、一昨年に10周年を迎えた立川市オリジナルキャラクターのくるりんです。くるりんの愛らしい尻尾はコブシの花だごとく存じましたか? くるりんを見かけたら確かめてみてください!

※描かれている老木について、教育委員会作成の複製原画解説文では「コブシ」としていますが、作者・馬場吉蔵の添え書きには「白木蓮」と記されています。両種とも、樹形や花が似ているため、たびたび間違われますが、樹木が失われている現在では確認する術はありません。当時の写真や情報がないので、ご迷惑を。歴史民俗資料館までご連絡ください。

60 歴史民俗資料館 ☎ (525) 0860

